

## 道徳科学習指導案

1 学 年 第4学年

2 教 材 名 いのちをつなぐ岬（光村図書4年）  
**【自然の大切さ】 D（19）自然愛護**

3 ね ら い ウミガメの産卵の写真や保護に取り組む人々の思いを通して、自然を守るために大切な心について考えさせ、自然やそこに生きる動植物を大切にし、環境保全について関心をもとうとする心情を育てる。

4 本時の目標 動植物に関心を持ち、環境保全につとめる人々の心情

5 本時の展開

	学習活動	指導の内容・予想される反応	指導上の留意点	場の設定と評価 (◎)
導入	ゲストの自己紹介 「ウミガメの話」 (54、55)  「私は誰でしょう」スライドショー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進行役の教師が俳優の紹介をする。</li> <li>○実は僕は俳優をしていて、今度ある生き物を演じる予定なんですけど、人間じゃない生き物なので気持ちもよく分からないし、僕はその生き物のことなんだか怖いなと思っていて上手く演じられません。だから今日はみんなと一緒にこのある生き物について考えてみて、この生き物の魅力を教えてもらえたらなと思っています。</li> <li>○ではその僕が演じる予定の生き物とはなんでしょうか、クイズです。 静岡県御前崎市、三方を海に囲まれた岬の町に暮らしているある生き物の事を今から紹介します。わかったら口に出して言ってください。 『私は、海藻や貝を食べたりします』 『は海のそばに住んでいます』 『私の足跡はこんな感じです』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挙手指名で答えるのではなく、わかった瞬間に口々に発言するように促すことにより、今日の授業では感じたことをそのまま伝えてよいというメッセージを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>【俳優という設定】</b> ・俳優の役作りを助けるために、ウミガメについて共に学んでいくという設定で学習への意欲を喚起する。</li> <li><b>【私は誰でしょう】</b> ・登場するウミガメへの想像力を膨らませる。</li> <li>・ウミガメへの興味を喚起する。</li> <li><b>【手を挙げて答えてもらわない】</b> 正解を出すのではなく、思った事を共有する場作りの演出とする。</li> </ul>

		『私は大体 100 センチぐらいあります(小1ぐらい)』 「魚」「ザリガニ」		
展開前段	「ウミガメの産卵」 (56、57)  セリフをつけてみよう1 「なりきりインタビュー」  写真スライド	○今から見てもらうのはある夏の夜の砂浜にやってきたウミガメをとらえた写真です。 ・児童は、写真を見て、思ったことをつぶやく。 ・ウミガメの背景に映り込む砂浜に落ちているゴミにも着目できるよう働きかける。 ○この写真のウミガメさんに質問するのなら何を聞きますか？班で考えて1つ質問してみましょう。 ・講師がウミガメになって答える。その際、うまくいかないパターンを作る。 『みんながウミガメだったらなんて答えると思う？』 →児童にウミガメ役になって答えてもらう。	・ウミガメについての正しい知識を身につけさせるのではなく、興味を持ってもらう事を優先させたい。 ・講師が十分にウミガメになりきれていない様子を示すことで、さらにウミガメについて知りたいという気持ちを引き出す。	【質問したくなる写真の提示】 ・ウミガメだけでなく、周囲の環境への想像力と興味が引き出せるような写真を提示する。
展開中段	保護監視員  「私は誰でしょうクイズ」 スライドショー  (58)  映像視聴	○ウミガメの産卵の時期になると、毎朝、御前崎の海岸に「ある人たち」が現れる。この人たちは誰でしょう？ 「様子を見に来る近所の人」 「卵を取る人」 「いたずらしている人かもしれない」 ○私は「ウミガメ保護監視員」です。私はウミガメの巣穴から丁寧に卵を掘り出します。 ○他にも、ウミガメの周りには、色々な人がいます。とっておきの映像で見てみましょう。	・「私は誰でしょう」というクイズにすることで、「この人たちは何でこんな事をするのかなあ」という想像を働かせるようにする。	◎ウミガメの産卵に多くの人に関わっていることに気づき、海の環境を守ろうとする人々の思いについて考えを広げている。

<p>展開後半</p>	<p>セリフをつけ てみよう2 「なりきり会 話」  (59)</p>	<p>○ここから、御前崎小学校の児童が海に返した子亀が、産卵するために海にきた母亀と再会した時の場面のセリフを考えてもらいたいと思います。まず、出会った時の場面をやってみせますね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師とゲスト講師でやりとりの導入部を見せる。</li> </ul> <p>親ガメ「あれ・・・お前はもしかして」 子ガメ「お母さん、お母さーん」 親ガメ「あらあ、ずいぶん元気そうじゃないか」 子ガメ「うん。実はね、御前崎小学校のみんなと一緒に暮らしてたんだよ」 親ガメ「御前崎小学校のみんなと！ それはそれは・・・それで、どうだった？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうだった」の後の親子の会話を考えてみよう。</li> <li>・児童の考えた会話を使い、児童や講師、教師で演じる。</li> </ul> <p>○ウミガメの親子の気持ちが伝わってきましたね。俳優さん、ウミガメ役、うまく演じられそうですか？</p> <p>○みんなと想像したウミガメの気持ちやウミガメを守る人々の思いを忘れず、演技にチャレンジします！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正解があるような問いかけではなく、「場面にあったセリフを考える」という楽しさを提示することで、児童の想像力を喚起する。</li> <li>・子どもたちのロールプレイを通して、俳優が学んだ「ウミガメの気持ち」をまとめることで、児童が「俳優に協力できてうれしい」と思えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世話をしてる当事者だけではなく周囲の人にもフォーカスを当てる事「もしその場に自分がいたら」という想像力を働かせ、より多角的に状況をとらえたり、当事者性を持ってウミガメについて考えたりできるようにする。</li> </ul>
<p>終末</p>	<p>60 ページ</p>	<p>○みなさんも、今日の授業で気づいたこと、学んだことを振り返りに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウミガメについての絵本や新聞記事を紹介し、興味関心を上げられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを書く際は、正解を言うのではなく、気持ちを伝えることを重視する。</li> </ul>

※授業で活用した参考資料：

動画「御前崎小学校ウミガメ放流 日本財団 海と日本 PROJECT in 静岡県 2020 #07」

## 6 学習指導要領との関連

本単元ではD「主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」の指導要項「自然愛護」(19)自然のすばらしさや不思議さを感じ取り，自然や動植物を大切にすること。副次的に「生命の尊さ」(18)生命の尊さを知り，生命あるものを大切にすること。を受けて指導する。

外部講師（俳優）が「みんなから愛されるウミガメ役」をうまく演じられるよう助ける中で，児童はウミガメの保護活動を行う人々や、ウミガメの産卵の様子、生まれたウミガメが生育した後に海岸に戻ってくることを知る。また、ウミガメの保護活動を行う人になりきって「ウミガメがどうして愛されるのか？」を考えることで、環境保護やその必要性について考えることができる。ウミガメが多くの人や生命の中で守り育まれていること、厳しい自然環境の中で母ガメとして戻ってくるカメは少ないことにも言及し「生命の尊さ」単元につなげる。